

2022. 2. 2

夜活応援講座 説明資料

「ブルー」が静岡を変える？

広がるブルーエコノミーの取組と最先端のマリンバイオテック

一般財団法人マリンオープンイノベーション機構

総論

○ブルーエコノミーの潮流

○MaOIプロジェクトとは

○MaOI機構の取組事例

各論

○ゲノム科学とは何？

○ゲノム科学にできること

○ゲノム科学を海洋産業へ

持続可能な開発が求められる「海洋」



国連海洋科学の10年

「海洋産業の振興」と「海洋環境の保全」の両立が国際的課題

Blue Economy = 持続可能性を踏まえた海洋経済

①Ocean and Water Industries ②Science- Based ③Sustainable

Blue Tech = Blue Economy を実現する産業技術

14: 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

[達成基準項目]

- 14.1 2025年までに、陸上活動による海洋堆積物や富栄養化をはじめ、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に減少させる。
- 14.2 2020年までに、海洋および沿岸の生態系の強靱性強化や回復取り組みなどを通じた持続的な管理と保護を行い、大きな悪影響を回避し、健全で生産的な海洋を実現する。
- 14.3 あらゆるレベルで科学的協力の促進などを通じて、海洋酸性化の影響に対処し最小限化する。
- 14.4 2020年までに、漁獲を効果的に規制して、乱獲や違法・無報告・無規制 (IUU) 漁業および破壊的な漁業慣行を撤廃し、科学的情報に基づいた管理計画を実施することにより、実現可能な最短期間で水産資源を、少なくとも各資源の生物学的特性によって定められる持続的生産量のレベルまで回復させる。
- 14.5 2020年までに、国内法および国際法に則り、入手可能な最適な科学的情報に基づいて、沿岸・海洋エリアの最低10%を保全する。
- 14.6 2020年までに、開発途上国および後発開発途上国に対する適切かつ効果的な、差異のある特別な待遇がWTO漁業補助金交渉*の不可分の要素であるべきことを認識したうえで、過剰生産や乱獲につながる漁業補助金を禁止し、IUUにつながる補助金を撤廃し、同様の新たな補助金の導入を抑制する。
- 14.7 2030年までに、漁業、水産養殖、および観光の持続可能な管理などを通じた、小島嶼開発途上国および後発開発途上国の海洋資源の持続的な利用による経済的利益を増加させる。
- 14.a 海洋技術の移転に関するユネスコ政府間海洋学委員会の基準・ガイドラインを勘案し、科学的知識の増進、研究能力の開発、および海洋技術の移転を行い、開発途上国、特に小島嶼開発途上国および後発開発途上国の海洋の健全性の改善と、開発における海洋生物多様性の寄与向上を目指す。
- 14.b 小規模・伝統的漁業者に対する、漁業および市場へのアクセスを提供する。
- 14.c 我々が望む未来のパラグラフ158にある通り、海洋および海洋資源保全・持続的利用のための法的枠組みを規定する海洋法に関する国際連合条約 (UNCLOS) に反映されている国際法を実施することにより、海洋および海洋資源保全・持続的利用を強化する。

The BlueTech Cluster Alliance 加盟機関及びBlue Tech Week 2019 参加機関 (TMA BlueTech 資料より)



世界各国で「海洋」をテーマにした産業クラスターが次々と設立

幅広い Blue Economy の産業分野

(TMA BlueTech 資料より)

- 1 養殖・水産業 (Aquaculture and Fishing)
- 2 造船業 (Boata & Shipbuilding)
- 3 安全保障 (Defence & Security)
- 4 マリンレジャー (Marine Recreation)
- 5 インフラ関連業 (Ocean Instrumentation)
- 6 港湾運送業 (Ports & Maritime Transportation)
- 7 ロボット・海中艇製造業 (Robotics & Submarines)
- 8 メガフロート (Vert Large Floating Platform)
- 9 バイオ医薬 (Biomedicine)
- 10 海底ケーブル (Cables & Connectors)
- 11 淡水化事業 (Desalination / Clean Water)
- 12 海洋エネルギー・資源 (Ocean Energy & Minerals)
- 13 海洋関連科学 (Oceanography & Marine Science)
- 14 専門的サービス (Professional Services)
- 15 情報通信 (Telecommunications)
- 16 気象学 (Weather & Climate Science)



総論

○ブルーエコノミーの潮流

○MaOIプロジェクトとは

○MaOI機構の取組事例

各論

○ゲノム科学とは何？

○ゲノム科学にできること

○ゲノム科学を海洋産業へ

マリンオープンイノベーションプロジェクト

Marine Open Innovation Project



日本一高い富士山の麓に位置する**静岡県**は、日本一深い**駿河湾**をはじめ、**相模灘**、**遠州灘**、汽水湖である**浜名湖**など特徴ある海洋環境に接する長い海岸線を有し、多様な海洋生物など豊かな資源に恵まれている。

マリンバイオテクノロジーをはじめとする海洋先端技術の導入やイノベーションの促進などにより、持続可能性を踏まえて、その恵みを、より豊かな社会づくり、未来づくりに活かす

海洋産業の振興と海洋環境の保全の世界的な拠点形成を目指す

Blue Economy

MaOIプロジェクトの基本理念

海の恵みといのちを イノベーションで 社会へ 未来へ

近年、量子生命科学や宇宙生物学など、生命の神秘や起源を探る新たな学問が次々と誕生している。21世紀は「環境の世紀」であると同時に「生命（いのち）の世紀」でもある。その**生命を生み育んできた母ともいえる海洋**は、太古の昔から、様々な恩恵を人類にもたらしてきた。とりわけ、長く美しい海岸線を有し、駿河湾、富士山、伊豆半島という世界に誇る美しい自然環境を擁する静岡県に暮らす私たちは、長年にわたり海と共生し、海からの恵みを享受してきた。豊穡なる海が“ふじのくに”の健やかな生活と豊かな文化を育んできたのである。

一方で、海洋資源問題や海洋プラスチックごみをはじめとした海洋汚染問題にみられるように、近年、海はその様相を変えつつある。これまでと同じような恵みを享受し続けることが難しくなるのではないか、そんな懸念が高まっている。海で一体何が起きているのか、原因の解明が急務となっている。**これまで海の恵みを存分に受けてきた私たちは、海について理解を深め、海で生きる命を守っていかなければならない。**そのためには、テクノロジーが重要な要素となる。

今日、ICT、AI、ロボティクス、バイオテクノロジーなど、科学技術の飛躍的発展により、私たちは未知なる海とその恵みについて、少しずつではあるが理解を深めつつある。最近では、海から得られる持続可能な恵みによる経済効果を“Blue Economy”と呼び、米欧のみならず太平洋に浮かぶ国々などが注目している。そして**Blue Economyを実現する多種多様なテクノロジーである“BlueTech”を活用し、「持続的海洋産業」とも言い得る新たな産業の創生**に取り組み始めているⁱⁱ。

私たちは、この「生命（いのち）の世紀」において、**MaOI-PARCを「知」の拠点とし、母なる海とそこで生きる命について研究し、BlueTechにより多様な産業分野での新たな価値の創出と海洋環境・海洋資源の保全に結びつける取組を行うことにより、海と人が共にある暮らしを未来につないでいく。**

このことを、豊かな海の恵みに育まれたここ“ふじのくに”静岡の地において宣言する。

MaOIPプロジェクトとは

広範な海洋関連産業分野をターゲットに新たな価値の創造、課題解決を目指す

養殖・水産事業、食品、創薬・化粧品、造船、港湾施設等インフラ整備
・管理、AUV・ROV、海洋プラスチック対策、海洋エネルギー など

未知 → 既知

<見える化>

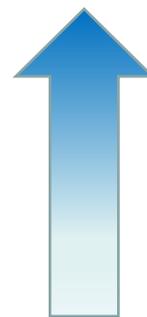
海洋先端技術 (マリンバイオテクノロジー、センサー、情報通信、研究成果 等)

イノベーション (新結合) (異業種連携、産学連携 等)

例えば・・・

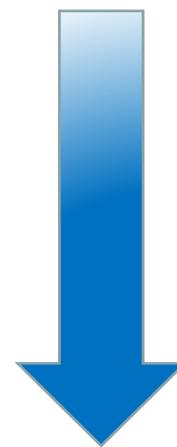
海・水の中が見えない → 海中・水中の様子を陸上で確認、海の変化を数値で把握
海中・水中のプラスチックごみ対策
水棲生物の持つ未知の価値 → 人の健康に有用な成分、「廃棄物」の持つ価値
水棲生物の成長要因 → 成長と育てる環境要因の関係をデータで分析
業界内の長年の課題 → 異業種からの「視点」が解決の糸口 など

先進技術やイノベーションの活用により、課題解決や新たな価値の創造を支援



- ◇増産
←生産工程の改良
- ◇改良
←新たな「魅力」の付加
- ◇新規

$$\text{利益} = \text{売上} - \text{経費}$$



- ◇原材料
←改良・代替
- ◇生産工程
←省力化・システム変更
- ◇労働力
←自動化・省力化
- ◇営業経費 等

マリンオープンイノベーションプロジェクト推進イメージ

目的

駿河湾等の特徴ある環境や、そこに生息する多様な海洋生物など魅力ある海洋資源を活用し、マリンバイオテクノロジー等の先端海洋技術を核としたイノベーションを促進することにより、海洋産業の振興と海洋環境の保全の世界的拠点を形成

人材育成
地域づくり
世界発信

人材の集積と育成

長期的視点で人材育成の仕組みを検討

美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会

地域づくり

「海洋」をテーマとした地域ネットワークの構築

世界への発信と展開

海外BlueTechクラスターとの連携促進
国際会議等での情報発信

Blue Tech クラスター アライアンス (米国サンディエゴほか)

MBC2019 国際マリンバイオ学会

産学官連携による産業応用の推進

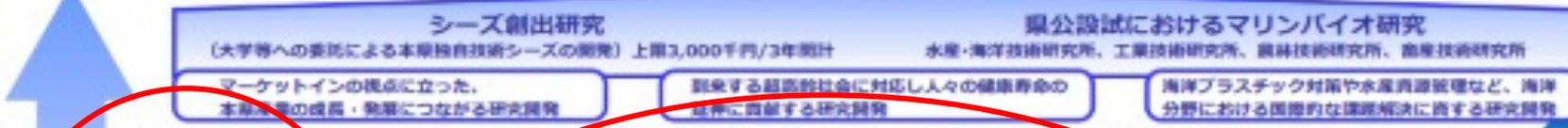
| | | | | |
|---|---|--|--|---|
| <p>水産</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ サクラエビ等の資源把握 ✓ 革新的な種苗生産技術・養殖技術の開発 ✓ 養殖魚の健康管理 など | <p>食品</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 海洋微生物を活用した新たな発酵食品の開発 ✓ 海洋生物資源を活用した機能性食品の開発 など | <p>創薬・化粧品</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 海洋魚類の新規機能性物質の探索・医薬品への応用 ✓ 未利用海藻などを活用した化粧品等の開発 など | <p>環境・農業・その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 海洋プラスチックの課題解決への貢献 ✓ 農業と水産業の連携 (農産物の水産飼料への活用 など) | <p>先端デバイス等海洋技術開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ センサーデバイスによる養殖場管理システム構築 ✓ AUV、ROVの開発 など |
|---|---|--|--|---|

| | | |
|--|---|--|
| <p>マリンオープンイノベーション事業化促進助成</p> <p>(水産・食品・創薬等の事業化コンソーシアムへの補助) 上限4,000千円/3年計・補助率2/3</p> | <p>先端産業創出プロジェクトや県公設試との連携</p> <p>ファルマバレー (創薬)、mCaOI (機能性食品等) フォトンバレー (デバイス等)、AOI (農業)、水技術、工技研</p> | <p>海洋技術開発促進助成</p> <p>(工学・情報系の技術開発への補助) 上限2,000千円/2年計・補助率2/3</p> |
|--|---|--|

MaOI-FS (試作品開発・検証)

上限: 2,000千円/1年 補助率: 2/3 支援主体: MaOI機構

研究開発領域の重点化



拠点・プラットフォームの整備と活用

(推進体制の整備)



オープンデータ・オープンサイエンスの推進

| | | |
|---|--|---|
| <p>MaOIフォーラム (産学官会の合同ネットワーク)</p> <p>多様な主体の夢により、新たな事業化・研究開発テーマが持続的に生み出されていくオープンイノベーションの推進</p> | <p>BISHOPコンソーシアム (BISHOP連携研究グループ)</p> <p>MaOI機構、大学、県公設試等が連携し、研究データのBISHOPへの登録や、BISHOPデータの研究開発への活用を推進 (環境DNA研究グループ、海洋プラスチック研究グループなど)</p> | <p>多彩な環境により生物多様性に恵まれた駿河湾をはじめ、浜名湖、遠州灘、相模湾など全国有数の資源採取と研究のフィールドを活用</p> |
|---|--|---|

「知」の集積とオープンイノベーションの拠点形成

プロジェクトの推進役：一般財団法人マリンオープンイノベーション機構

- 令和元年7月1日、静岡県の全額出資により一般財団法人マリンオープンイノベーション機構（通称：MaOI機構）設立
- 理事長、研究所長、顧問、統括プロデューサーに専門家を配した運営体制
- 実務は、専務理事兼事務局長と総務部長が統括
- 主な業務：海に関わる3つの活動

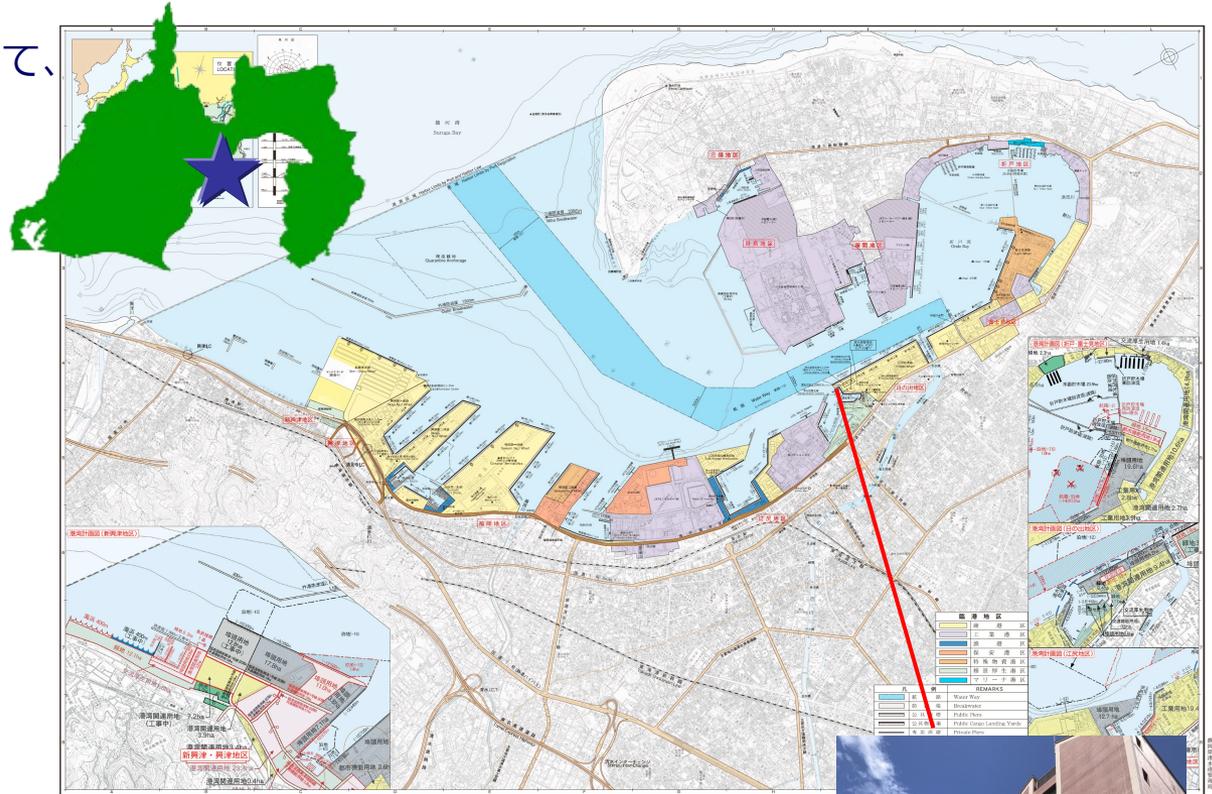
- ◇海洋研究の推進
 - <PARC機能をを活用した研究・分析>
 - <他の研究機関、大学等との連携>
- ◇Blue Economyの推進
 - <MaOIフォーラムの運営>
 - <課題解決や新規事業化の支援>
 - <大学、研究機関等との連携>
- ◇海に関わる人・団体の連携促進

- 今後、研究員やコーディネーターの拡充などにより、機構の体制をさらに強化



MaOIプロジェクトの拠点：MaOI-PARC (Marine Open Innovation Practical and Applied Research Center)

○プロジェクトの中核拠点施設として、
静岡市清水区の清水港を臨む地に
立地する清水マリビル2階に、
「MaOI-PARC」を整備
(2020年11月26日 開所)



○主な機能：

- ◇共同ラボ
- ◇連携研究室 (小・大)
- ◇交流スペース
- ◇データベース「BISHOP」



MaOI-PARC

MaOI-PARC ロゴマーク

青色のグラデーションで富士山の豊かな水、駿河湾の海の深さをイメージし「MaOI-PARC」の未来感を表現。



MaOI-PARC が入居する「清水マリビル」

プロジェクトの拠点施設MaOI – PARC（静岡市清水区）の施設概要

共同ラボ

FBO Image, 917 x 808 pixels - Scaled (300) <http://www1>



コミュニティスペース



受付・機構執務室



連携研究室（小）
×4部屋



機構執務室
（研究部）

内装にメタリックな素材と県産材等の木の温もりを取り入れることにより「先端テクノロジー」と「自然」の融合を表現

MaOI共同ラボについて

MaOI-PARC共同ラボ

MaOI-PARCの共同ラボは、マリンバイオテクノロジー研究を主な目的とした実験室で、MaOIフォーラム会員が利用できるスペースです。主に、海洋微生物の分離培養をはじめ、生物ゲノムの決定、環境DNA・海洋メタゲノムの解析等の研究での利用を想定しています。さらには、最新技術「ドロップレットシステム」を用いた、1細胞単位での解析技術(シングルセルテクノロジー)により、これまで未知の領域とされていた難培養性微生物の研究など、高度かつ産業応用が期待される分野の実験も行うことが可能です。共同ラボの利用に当たっては、MaOI機構の研究スタッフから技術的指導を受けることができます。

1 Microbial culturing (微生物培養)

共同ラボには、海洋等の環境サンプルから産業に有用な微生物を分離・培養する設備があります。駿河湾の沿岸から深海まで、変化に富んだ幅広い環境からサンプルを採取し、乳酸菌や酵母、さらには培養が困難な未知の菌まで、培養にトライできる実験環境が揃っています。



バイオハザード対策用
キャビネット



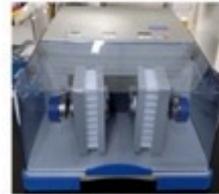
インキュベーター



大型嫌気チャンバー

2 Genome sequencing (ゲノム解読)

共同ラボでは、ゲノムシーケンシングを利用した研究を実施する環境が整備されています。多様な生物種や環境サンプルから高いクオリティのDNAを抽出できます。またメタゲノム、メタトランスクリプトーム、Rad-Seqなど幅広いシーケンシングテクニックに対応したNGSゲノムライブラリーの作製も可能です。



ビーズ式細胞破砕機



PCR機

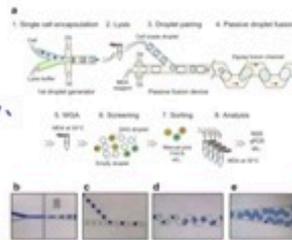


マイクロチップ型電気泳動装置

3 Droplet-System (ドロップレットシステム)

Single cell technology

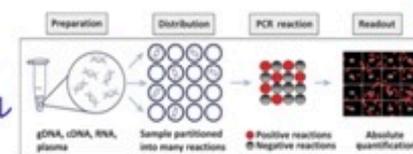
シングルセルテクノロジーはマイクロドロップを用いて環境中のバクテリアを1細胞ごとに分離し、実験に供試する技術です。バクテリア細胞毎にゲノムシーケンシングを行うことも可能であり、難培養微生物のゲノム情報を得ることも可能です。



共同ラボは、マイクロドロップレットを利用した最新技術を導入しています。これにより1分子、1細胞レベルでの様々な解析が可能となります。

Digital PCR

Digital PCRはマイクロドロップレットを利用し、環境中のDNA/RNAを1分子レベルでカウントする手法です。生物種の量や多型を調査することができます。魚などの生体から病原菌やウィルスを検出・定量することも可能です。



BISHOPとは

BISHOPとは、MaOI機構が中心となり、静岡県公設試験研究機関・大学等と連携し、駿河湾等の海洋データや微生物情報等を集積した**オープンデータプラットフォーム**です。これまで異なる機関で独自に作成・管理されてきた海洋観測データを集約し、ワンストップ・サービスとして再構築しました。

また、BISHOP独自の機能として、**海洋微生物ライブラリー**と、その**菌株分譲**があります。これらの機能により、海洋資源の更なる活用促進を図ります。



MaOIフォーラムの運営

- MaOI機構が事務局となり、大学研究機関、民間事業者、産業支援機関、行政など多様な主体が参画する会員ネットワーク組織「MaOIフォーラム」を、令和元年10月に設置
- 主な事業
 - ◇フォーラム会員を対象とした情報発信
 - ◇コーディネーターによるMaOI関連事業支援
 - ◇先進情報の共有とMaOIプロジェクト周知のため、MaOIセミナー等を開催

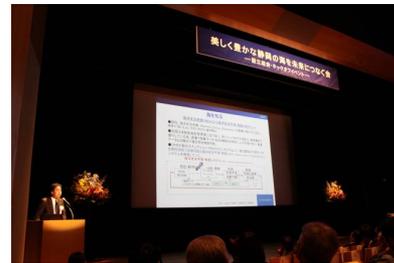
【2021年度開催状況】

- ◆ 第1回WEBセミナー 6月16日(水)
「食べて元気に！今こそ食べたいマリンビタミン」
- ◆ 第2回WEBセミナー 10月6日(水)
「生物由来の医療用接着剤の開発」他
- 第1回MaOIサロン 6月1日(火)
「国産サーモンの海水養殖種苗の育種を巡る最新の状況」
- ◎ 第3回海洋プラスチック研究プロジェクトセミナー(共催事業) 6月22日(火)
「海洋プラスチック問題についての政府の取組動向」

MaOIフォーラムの活動(令和元年度)



「MaOIフォーラム」設置記念セミナー
(12/2 静岡市、12/11 沼津市、12/13 浜松市)



「美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会」キックオフイベント
〈静岡県・MaOI機構共催〉(2/14 静岡市)

<MaOIフォーラム概要> 現会員数：121

対
象

- <一般会員(49)>
MaOIプロジェクトに関心を持つ法人、団体及び個人
- <サポーター会員(72)>
国・関係機関、地方自治体、大学・研究機関等

会
費

- <一般会員> 5万円/口
- <サポーター会員> 無料

総論

○ブルーエコノミーの潮流

○MaOIプロジェクトとは

○MaOI機構の取組事例

各論

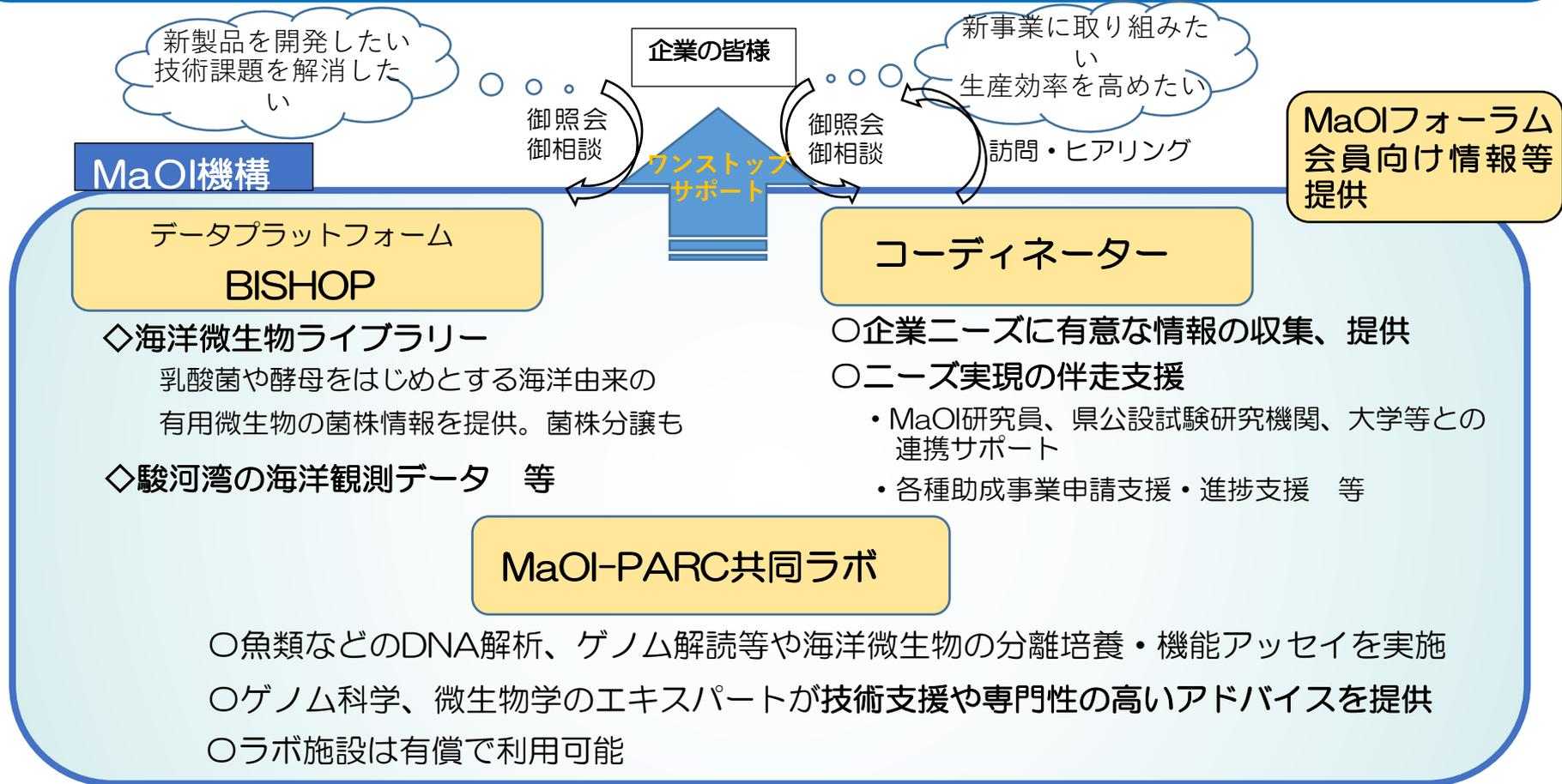
○ゲノム科学とは何？

○ゲノム科学にできること

○ゲノム科学を海洋産業へ

MaOI機構の役割

バイオ研究の専門家やコーディネーターが、課題解決や新たな価値の創造を伴走支援



緊密に連携

県の試験研究機関と緊密に連携。県内外の大学、県内外の試験研究機関等とも協力・連携関係を構築

機構の提供サービス：バイオ研究の専門家による事業支援

ワンストップ

新製品開発、技術相談

(コーディネーター経由、ご紹介、Web等)

MaOI微生物
ライブラリー
(BISHOPチ
ーム)

県内企業等
(食品、発酵等)

技術支援 (共同ラボの利用)
問題解決へのアドバイス
御提案・菌株の提供 等

<連携して支援>

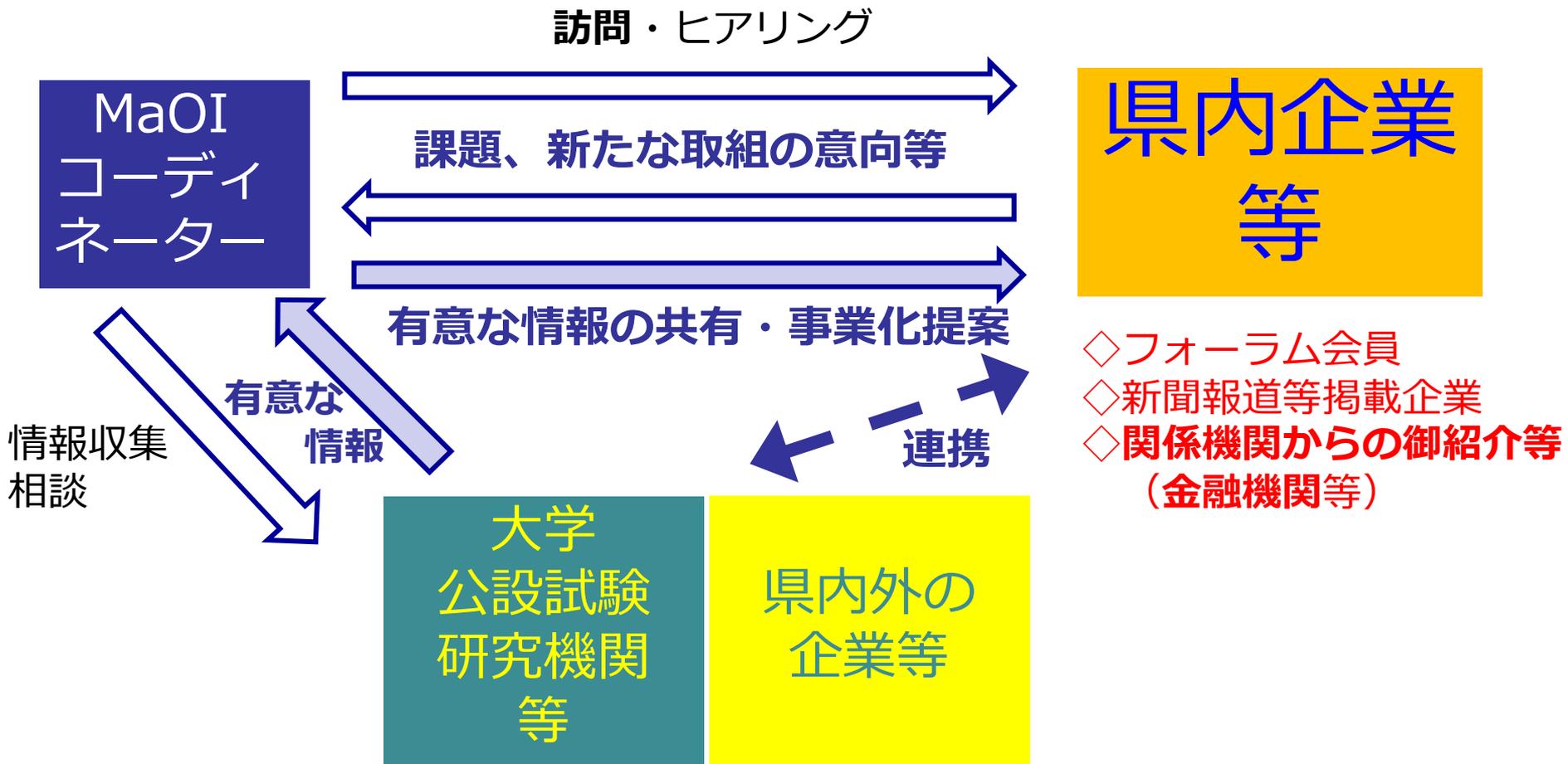
協力依頼

有意な
情報

専門性の高いアドバイス
開発サポート

静岡県水産・海洋技術研究所
静岡県工業技術研究所
静岡県畜産技術研究所
静岡県農林技術研究所 等

コーディネーターによる事業化支援



静岡大学、静岡県立大学、東海大学、静岡理工科大学、県水産・海洋技術研究所、県工業技術研究所等
マリンオープンイノベーションプロジェクト戦略推進委員会委員 等
(東京工業大学、早稲田大学、東京海洋大学、東京農工大学、海洋研究開発機構 (JAMSTEC)、
水産研究・教育機構、理化学研究所等)

MaOIプロジェクトにおける事業化支援制度

バリューチェーンの各ステージをカバーする事業費助成の仕組みを構築

MaOI機構のコーディネーターが、支援希望者のプロジェクトの構築や申請準備、採択後の事業進捗をサポート

MaOI-FS

海洋技術開発
促進事業費補助金

シーズ
創出研究

技術
開発

試作

検証

量産
上市

シーズ創出
研究業務委託

マリンオープンイノベーション
事業化促進事業費補助金

事例 1

「三保サーモン」生産支援

- 事業主体：日建リース工業(株)
- 事業概要：三保半島の地下海水を活用してサーモンの陸上養殖を行う
- 支援概要：サーモン陸上養殖をより効率化できるセンサーデバイスシステムの技術開発等を支援
- 支援内容：海洋技術開発促進事業費助成
ベンチャー企業等とのマッチング
イベント等での情報発信支援 等



○ここに注目：陸上養殖ノウハウの獲得・DX生産システムの構築
地産地消の取組（株ふかくら、株竹屋旅館、コロワイドG等）
水産物生産～販売のバリューチェーン構築＜**魚活ボックス活用**＞

事例2

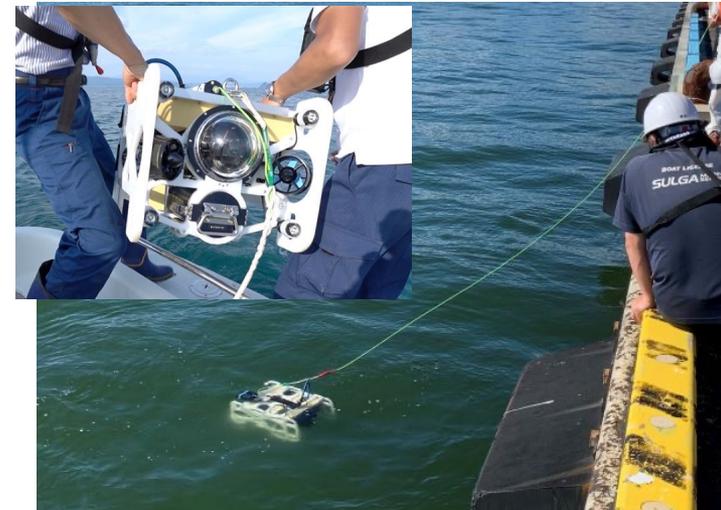
水中ドローン (ROV) ビジネス構築支援

○事業主体：静岡商工会議所・(株)フルデプス
(堀谷(株)、大日工業(株)、(株)柿澤学園)

○事業概要：ROVによる港湾施設管理検討
ROV利用促進スキームの検討

○支援概要：官民連携支援
補助金申請支援

○支援内容：地元企業とベンチャー企業のマッチング
清水港管理局等行政機関との連携支援
国土交通省次世代モビリティ実証実験
(ROVによる岸壁点検試験) 申請支援等



○ここに注目：「担い手 (潜水士) 不足」等に対応する新たな仕組みの提案
全国のリーディングモデルとなる可能性
清水にROV拠点 (新たな産業クラスター) 誕生の期待

事例3

海洋微生物を活用した鯖ラーメン開発支援

○事業主体：(株)岩清

○事業概要：海洋由来の微生物を活用した鯖内臓発酵エキスをを用いたスープと鯖を練り込んだ麺により、ハラール対応の新たなラーメンを製造、販売する

○支援概要：駿河湾由来の微生物を活用したラーメンエキスの開発・量産化支援

○支援内容：MaOI助成金による支援

(マリンオープンイノベーション事業化促進事業補助金)

製品パッケージや販売促進に資する情報提供 等



○ここに注目：地域のバイオ資源を活用した新製品の開発
ラーメンを食べたくても食べられない人向け商品の開発
広く海外を視野に置いた販売戦略

事例4

アカモク利活用支援

<ケース1>

- 事業主体：(株)GOLDBLUE 他
- 事業概要：駿河湾由来アカモクとマグロを使用した高保湿化粧水の開発
- 支援概要：製品開発・新たな販路開拓支援
- 支援内容：事業化促進事業費補助金助成
新たなECサイトとのマッチング



<ケース2>

アカモクをテーマとした勉強会「MaOIサロン」開催 等

- 事業主体：おいしい産業(株)
- 事業概要：アカモク養殖
- 支援概要：情報共有・意見交換、上記勉強会開催 等

○ここに注目：未利用資源を活用した**新たな地域特産品の開発**
海洋由来の**機能性成分**を活用した商品開発
養殖ノウハウ共有による**漁業事業者の多角化支援**

その他（例示）

☆業務の安全性、生産性向上に向けた取組

- 冷凍水産物加工機械の改良（異業種マッチングによる）
- 養殖現場での斃死原因探求（デジタルデバイスの設置、解析による）

☆脱炭素化、海洋環境改善に向けた取組

- 船舶エンジンの脱炭素化に向けた勉強会開催
- 藻場再生活動への支援（産・学・官連携による）

☆海洋資源の調査・研究・公開

- 駿河湾由来微生物等の調査・解析・公開
- 県水産・海洋技術研究所と連携した調査・研究
- 桜えび研究プロジェクト（SAKURA X等）事業費支援
（シーズ創出研究業務委託）＜東海大学 / 静岡大学＞



○ 海の森づくり体験教室



サガラメを移植した基盤
海藻おしばい
ハガキ

- ・ 磯焼けによる藻場の消滅が危惧される中、海の生命を育む海藻の大切さを、地域の子供たちに伝えるイベントを開催。
- ・ 海洋生分解性プラスチックの基盤に海藻サガラメの苗を植え付ける作業を親子で体験。
- ・ 海藻おしばい協会の指導による「海藻おしばい」づくりも実施。

○ 冊子「なぜ？なに？しずおか海のなぞ」の発行

- ・ 静岡の海に関する子供たちの疑問に答える冊子を作成し、会員等に配付。



○ パートナーの活動支援

- ・ 静岡の海に関わる各種活動を行う団体等（パートナー）の取組をHPで紹介したり、会員同士の連携を促進するオンライン交流会を開催。



○行政当局との距離が近いこと

⇔民間企業にとって行政はハードルが高い

⇔縦割・スピード感（投資回収）

⇒「横串を通すこと」が重要

○実証フィールドとしての場の提供

⇔民間企業は「場」を探している

⇒情報発信が重要

⇒他に先んじて「拠点化」する第一歩



2021年からの10年間は
「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」

駿河湾をはじめとする「静岡の海」に
Blue Tech の実証フィールドを形成し、
“ふじのくに”静岡県に Blue Economy の
世界的な拠点形成を目指します。